

みんなの声



中山 陽輝さん
(三ツ谷)

雄大な浅間山の麓、自然豊かな御代田町に育ち半世紀近く経つとしています。今日の私が在るのも健康な体に生んでくれた両親をはじめ、地域の皆様、友人家族、仕事を通じて長年お付き合いのあるお客様のお蔭です。この場を借りて「ありがとう」と感謝の意を表したいと思います。



特に私の住んでいる三ツ谷区の皆様には、大変お世話になっております。振り返ってみると消防団員として二十二年間在籍しとても良い先輩や後輩に恵まれ充実した日々を過す事が出来ました。突然の災害時、遠くの親戚より近くの他人と言つことわざの通り、普段の近所付き合いが如何に大切であるかなど、会社では教えてくれない人牛訓も学ばせて頂きました。また、分団長時代の同期(浅間会)にも恵まれ、退団して八年経ちますが、現在も二ヶ月に一度飲み会を開催しています。とても気心の知れた仲の良いメンバーです。



富士山からのご来光

全国的に消防団員の数が減っている現在、一人でも多くの若い世代に消防及び地域の繋がりの大切さを理解して頂き、社会の為、自分自身の為にも加入して頂きたいと願います。

出会いの中から、学んだ事は何事にも変えられない財産となるはずで、そして人生は一度きり、何事も挑戦です。そのためには、健康が第一です。私もこの三年間、減量に成功したのをきっかけに、近所の仲間と浅間山や富士山に登ったり、ハーフマラソン、フルマラソン大会に出場して、弱い心と体を鍛えています。

私が育った田舎は、千曲川ベルト地帯に連なる、昔からの歴史ある集落だった。義務教育は、小中学校が隣接している木造二階建の古い校舎であった。

春夏秋冬がはつきりしていて、春は何といつてもカラマツの芽吹きが印象的であり、校庭をとり囲むように咲く桜もすばらしく奇麗であった。また畑にはたんぼぼや、つくしんぼが見られた。夏はキュウリやトマトをわき水で冷やしておき、千曲川で水泳を楽しんだ後おいしく食べたことも懐かしい思い出である。秋は何といつても果物の季節であり、たわわに実った柿、栗りんごなどを食べて腹を満たしていた。



千曲川

冬には積雪の上を手作りの竹スキーで滑ったり、凍結した溜池で、下駄スケートを履いて滑ることも楽しみのひとつであった。

そんな小中学校時代であったが、今でも耳に残るのは、教室から流れる童謡である。

春の小川、夕焼小焼、里の秋、おぼろ月夜、ふるさととは印象に残っている。

戦後70年、日本は高度経済成長を遂げ、世界第3位の経済大国となり、物の豊かさは感じるが、心の余裕や思いやりにかけてはいないだろうか。

我々が取り組まなければならない問題は、人口減少、エネルギーの枯渇と地球温暖化、そして世界の安全保障である。国益という観点からも人類愛という観点からも何とかしなければならぬ課題である。

大事なことは、問題解決は今を生きるわれわれが決める、と言つことである。

笹沢 武